

それって **高**すぎる？

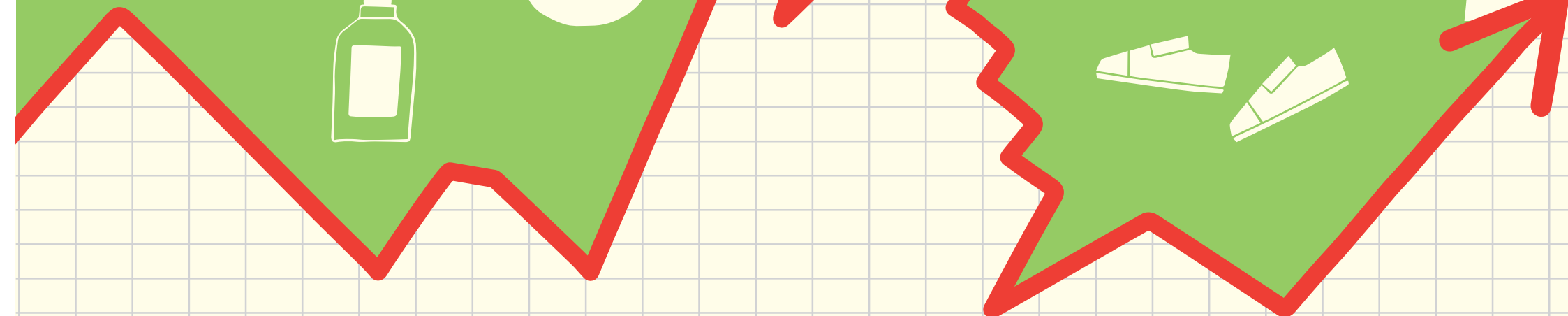
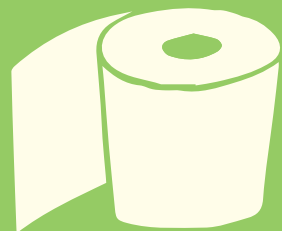
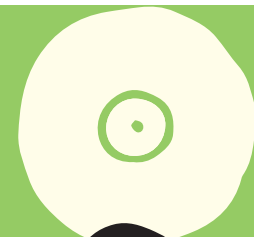
～フリマアプリ時代の売買の倫理～

Online
Work
shop



C^{to}

C



それって高すぎる？

～フリマアプリ時代の売買の倫理～



個人間売買(CtoC)で変わる消費

フリマアプリの登場により、消費者どうしが売買の取引をするスタイル(CtoC)が、新しい消費活動のカタチとして、社会に急速に受け入れられています。

しかしその別の側面として、これまで考えられなかったような問題も出てきています。

記憶に新しいところでは、コロナ禍でのマスクや消毒液の価格高騰も社会問題になりました。

このような個人間売買が定着していく社会において、どのような新たな「問題」が発生するのでしょうか。

CtoCプラットフォームのあり方も含めて、一緒に考えてみませんか？



個人で売買取引ができる時代

循環型社会の実現を視野に、リサイクルという概念が広く浸透してきました。また、フリマアプリの登場により、広い範囲で個人間売買(CtoC)ができるようになりました。今まで滅多に手に入らなかったものが購入できたり、不要なものを捨てなくて済むようになったり。

ただ、なんでも自由に売り買いできるということではありません。

たとえば、医薬品の販売には、特別な許可が必要です。化粧品もどんなものでも販売できるという訳ではありません。継続的に酒類を販売するには、酒税法による酒類販売業の免許が必要です。


また、売り方によっては、古物商の許可が必要になってくるようなものもあります。

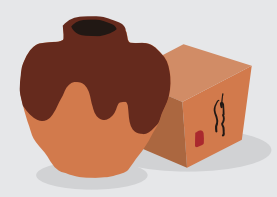
明確に規制されている
売ってはいけないもの (一例)




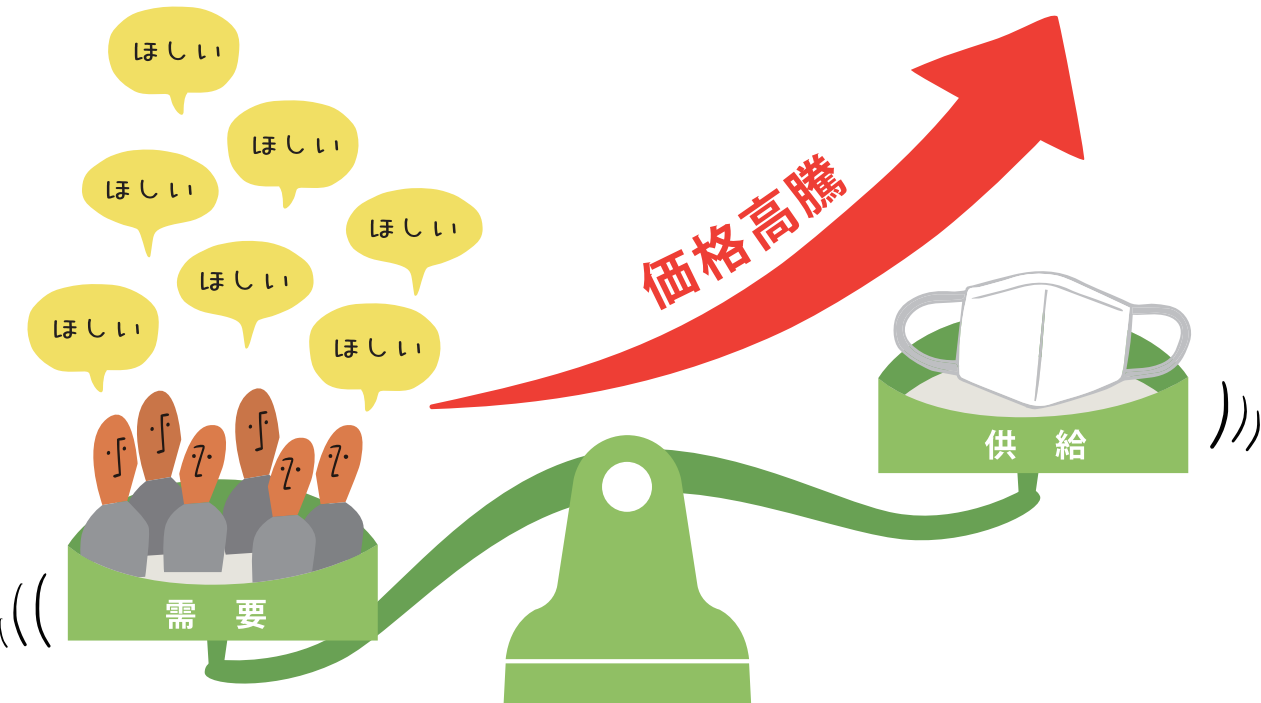
 医薬品
化粧品



 酒の転売
酒類小売業免許の取得業務



 古物商許可
の必要な売り方



「高すぎる」転売が問題に

売り手と買い手の、それぞれの倫理観に委ねられる、判断に迷うケースもあります。需要量に対して商品が品薄のとき、価格が上がるのは世の常ですが、フリマアプリなどの導入により個人間売買(CtoC)が容易になったことで、チケットやマスク、消毒液のように「高すぎる」転売が社会問題となり、新しくルールができたり、一時的に規制されたりするものもあります。これらのような「高く売っていいのか判断が付きにくいもの」を売買する際、CtoCプラットフォームのあり方、そのルールはどうあるべきでしょうか？

「高すぎる」転売が社会問題になったもの



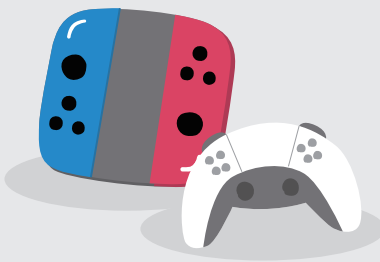
マスク



消毒液



チケット



人気のゲーム機

Buy?

買い手として...

Sell?

売り手として...

本当に欲しい人に商品が届くといいな

この値段で売っていいのかなあ

ちょっと高いけど買っちゃおう

子どもも欲しがってたし

高く売れそうだから、たくさん買っておこうかな

これって適正価格？

売れるなら高く売ってもいいよね

CtoC による「消費」の変化

消費者の立場から考えてみると、私たちはどのような時にモノの値段を「適正」と感じるのでしょうか？逆に「高すぎる！」と不快に感じるのはどのような時でしょうか？

CtoC プラットフォームにより、個人間売買が加速していくと、私たちは「買い手」でもあり「売り手」にもなり得ます。

たとえば「あとで売る」ことを前提とした商品の選び方・使い方など、人々の消費行動はどのように変化していくのでしょうか。



対話ツール

「それって高すぎる？ ～フリマアプリ時代の売買の倫理～」

企画・制作: 八木絵香、水町衣里

デザイン/イラスト: アトリエ・カプリス

©八木絵香・水町衣里

本対話ツールの制作にあたり、

岸本充生氏(大阪大学データビリティフロンティア機構 教授/社会技術共創研究センター センター長)、

長門裕介氏(大阪大学社会技術共創研究センター 特任助教)からの助言を得ました。

また、本対話ツールは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事業の補助金等を受けて制作しました。